

Record of Japanese Harvest Mouse (*Micromys japonicus hondonis* KURODA) from Ishikawa Prefecture

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-05 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: Nakahashi, Noriko, Ohgushi, Ryoh-ichi メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.24517/00029605

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



石川県におけるカヤネズミ採集記録

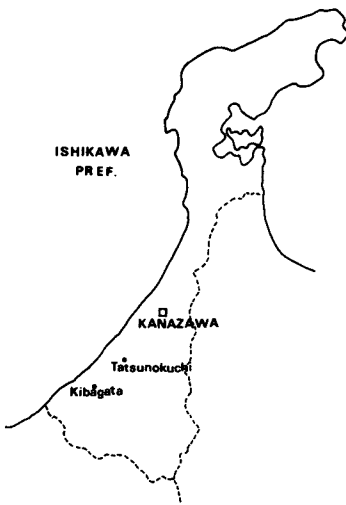
中橋典子* ・ 大串龍一**

Record of Japanese Harvest Mouse (*Micromys japonicus hondonis* KURODA) from Ishikawa Prefecture

Noriko NAKAHASHI and Ryoh-ichi OHGUSHI

カヤネズミは日本に分布する野鼠のうちで最も小型の種類であり、草の茎葉の間に鳥の巣のようなツボ型の巣を作ることで知られている。元来南方型の種類であり、わが国では茨城県以南の主に太平洋岸の本州15府県、四国4県、九州5県の計24府県に分布することが知られていた。

これまでカヤネズミの日本海本土部での確実な分布の記録があるのは、島根県（内田1965）一県であった。筆者らによる石川県辰ノ口町でのネズミ採集の際、1977年3月に1頭、1979年3月に3頭が捕獲された。石川県での採集はこれが初めてであるのでここに報告する。



第1表 採集されたカヤネズミの計測値

採集年	体重 g	頭胴長 cm	尾長 cm	後足長 cm	耳長 cm	♂	♀	趾球数
1977	7.2	5.75	7.45	1.52	0.95	♂		6
1979	5.3	5.93	6.01	1.50	0.94	♂		6
1979	5.6	5.81	5.96	1.55	0.93		♀	6
1979	—*	5.32	6.22	1.48	0.99		♀	6

* 飼育したため、採集時の体重は不明、5g位と思われる。

1977年3月22日、石川県能美郡辰ノ口町の金沢大学研修センター敷地内の休耕地で採集調査を行った。1979年3月12日の調査も同地で行った。

採集した場所は研修センターから1km離れた雑木林よりの休耕地である。休耕地は数年來放置され、ヨシが優占した湿地となっている。採集季節は2回とも3月であったため、草木は殆んど枯れ、周辺はヨシの枯れた茎が横倒しになっていた。採集には1977年はシャーマントラップを30ヶ使い、1979年はシャーマントラップとパチンコを計30ヶ使った。エサは

第1図 カヤネズミの採集地点
および巣(?)の発見された地点
採集地点: 辰の口
巣発見地点(長柄による)
: 木場潟

* 金沢大学理学部生物学科
** 金沢大学理学部, 日本海域研究所員

両年ともサツマアゲを使用した。

その結果、1977年には1頭、1979年には3頭のホンシュウカヤネズミ (*Micromys japonicus hondonis* KURODA, 1933) を採集した。また、両年とも同時にアカネズミが採集された。

外部形態については、採集時が両年とも3月だったので、4頭とも全体的に朽葉色を帯びており、腹部は薄茶がかかったグレーであった。また腰部や腹部に近いほど金茶色を帯びていた。しかし、実験室で飼育した生捕個体は成長するにつれて毛もぬけかわり、背部は暗赤褐色、腰部は金茶色で、体の後方ほどオレンジ色を帯びていた。また、腹部は白色に近かった。

採集した個体のうち、生捕された個体は実験室内で飼育した。飼育容器内では中に入れたヨシの茎葉によく登り、裂いた葉などで簡単な巢状のものをつくった。

食性については、ヨシの葉や茎をよく食べ巢材として頻繁に利用していた。他にスギナやイネ科植物のの種子等やカボチャやスイカの種も食べた。人工のものではパンやクラッカー類も食べた。

1977年7月下旬に同地で巢の調査を行ったが、1つも確認することはできなかった。

一方、1975年に辰ノ口から10km程以南にある木場渦において、野鳥観察中の長柄がカヤネズミの巢に似たものを発見している。巢の内容物が全くないことと、カヤネズミの巢にしては高すぎる不安定な位置にあったことなどから明らかな断定はできないが、辰ノ口での調査とともに、今後の生息調査が必要である。

ホンシュウカヤネズミの分布は石川の近県では長野南部、静岡、京都府、島根に産する。このほか、福井県から報告されているが、記録が不備な点があり、再確認が必要であるので、ここでは産地としてはとりあげない。日本海側の生息地の島根県では隠岐島(阿部1952)の他、近年本島部(内田1965)でもカヤネズミの生息が確認されている。日本海側という、雪の多い地方でのこの南方系のカヤネズミの分布は興味深いものであり、今後採集地周辺部での分布状況についての調査や生息調査が必要となろう。

謝 辞

稿を終わるにあたり、標本の同定をしていただいた国立科学博物館の今泉吉典博士、巢の同定や数々の助言をしていただいた九州大学農学部白石哲助教授、巢を提供され、また発見当時の状況など詳しく御教示いただいた故長柄多喜男氏に謝意を表したい。

参 考 文 献

- 阿部余四男 1952, 隠岐島哺乳類小報, 哺乳動雑, 1(1)p 5
今泉吉典 1960, 原色日本哺乳類図鑑,
白石 哲 1965, 日本の哺乳類, 2. 齧歯目, カヤネズミ属, 哺乳類科学第8号, p 1~13
内田 映 1965, カヤネズミについて, 松江生物懇話会会報5(1)p 5~7